

平成30年度 事業計画書

1 事業の実施にあたって

富士市文化会館ロゼシアターは、本年11月1日に開館から25周年を迎えます。四半世紀の歳月が過ぎる中、昨年末には会館利用者累計が1,100万人を超え、富士市はもとより静岡県東部地区の地域文化を支える役割を果たしてきました。

また、当財団が実施した自主事業の公演数も1,000事業を数え、地域住民の皆様の文化芸術活動に貢献していると自負しております。

平成30年度は、当会館の記念の年であると同時に、当財団が指定管理者として第3期目の指定管理期間の最終年度にあたります。

これまで培ってきた会館の管理運営の実績を踏まえ、安全安心を担保するため計画的な施設維持に努め、設備などの突発的な不具合には迅速に対応するとともに、富士市が実施する会館の老朽化対策には、財団の総力を挙げ協力してまいります。

会館施設の貸館業務にあたっては、お客様が快適にご利用できる環境を提供するためサービスの向上に努め、また安全対策の充実を図るため実践的な避難訓練を重ねるなど、危機感を持った対応に努めます。

会館の施設設備の保守管理については、昨年度市が実施しました劣化診断調査の結果に基づいて、会館を適正に維持する市の長寿命化計画の作成とESCO事業の実施に際しては、全面的な協力体制をとってまいります。

また、継続して市が行っているトイレの改修工事に対しては、お客様の安全安心と快適な利用環境を提供できるよう、スケジュール調整などについて、市と協議を続けていきます。

自主事業に関しては、「富士市文化振興計画」の基本目標である「心豊かな人を育てる文化の街 ～人が文化を創り、文化が人を育てる～」を根底に、市民文化の創造、鑑賞機会の提供に努め、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムも含め継続的な事業展開に取り組みます。

また、開館20周年記念事業として平成25年度に公演し、再演希望が多かった市民創作ミュージカル「I Live Here」を筆頭に、計4事業を予定しています。

さらに、当館に来館できない市民の皆様に向けたアウトリーチ事業として「おでかけミュージカル」と「おでかけクラシック」の実施を計画しております。

平成30年度は今期指定管理期間の最終年度にあたりますが、当財団は富士市文化会館ロゼシアターのより良い管理運営と、富士市の文化芸術政策をふまえた自主事業の実施に、なお一層の努力をしてまいります。

2 管理運営事業

富士市文化会館の維持・保全に努め、快適な利用環境を提供し、施設利用を促進するとともに、市民の文化活動を支援します。

開館から25年が経過する中、安定した利用実績を残している一方、経年とともに、館内各所の老朽化、機器の消耗が進んでいます。利用に支障を来すことのないよう清掃や点検作業を徹底し、万一、故障や不具合が生じた場合は、迅速な対応を行います。今後、改修が見込まれる設備、更新・修繕を要する大型備品等については、富士市とも協議し、計画的な運用を検討します。また、安全対策、バリアフリー化のため、手すりの取付け、サイン掲示等の整備を進め、利便性を向上させます。

施設の利用促進に向けた施策として、近年、利用率が減少傾向にある展示室の利用拡大のため料金の見直しを検討します。また、市民が、施設をより安全により快適に利用するためのサービスについても研究します。

平成28年度より市の事業として整備が進められているトイレの温水洗浄便座化については、平成30年度が計画の最終年度となりますが、その後、進められている和便器の洋式化には、引き続き全面的な協力体制をとります。このほか市で行う事業として、消防設備の更新や、E S C O事業導入に向けた準備作業等も進められています。これらについても、施設利用への影響を最小限に、円滑に業務が実施できるよう、市と情報を共有し、連携を図り対応します。

なお、平成30年度の財団が主体の周期委託業務は、熱源機器整備など9件を予定しており、適正・安全・着実な会館運営に努めてまいります。

◇ 通常委託業務以外に必要とされる主な周期委託業務（平成30年度計画分）

- ・ 熱源機器設備・・・・・・・・・・冷温水機整備
- ・ 舞台音響設備・・・・・・・・・・中ホール電源コンセント盤増設
- ・ 舞台照明設備・・・・・・・・・・大中ホールフロントライト器具更新整備
- ・ 舞台機構設備・・・・・・・・・・シーケンサ基板予備品整備
- ・ 自動制御設備・・・・・・・・・・制御機器・モータ部品整備
- ・ 受変電設備・・・・・・・・・・遮断器・継電器更新整備
- ・ 消火設備・・・・・・・・・・副電気室蓄電池交換
- ・ 自火報設備・・・・・・・・・・ハロゲンガス消火設備等整備
- ・ 情報設備・・・・・・・・・・表示設備整備
- ・ 建築物・・・・・・・・・・館内階段手摺整備

3 自主事業

(1) 自主事業計画方針

富士市は、平成25年度に「富士市文化振興基本計画」を策定し、その中で“こころ豊かな人を育てる文化のまち”～人が文化を創り、文化が人を育てる～を基本目標とし、「楽しむ」「育てる」「伝える」という計画実現の為の3つのキーワードを掲げ、将来に向けた地域の文化振興の基本的な考え方や計画の体系、進むべき施策の方向性を示しています。財団の自主事業は、この基本方針に則り、富士市及び地域に根差した文化の創造、鑑賞機会の提供に努めます。

平成30年度は、2020年東京オリンピック・パラリンピックを2年後に控え、自主事業の構成は、このことを念頭に置き平成32年度までの継続的な事業の取り組みを検討していきます。

さらに、従来実施してきた事業についても、時代の変化や市民ニーズに柔軟に対応し、事業内容のリニューアルを検討していきます。

開館25周年事業としては、平成10年度より継続して開催しているミュージカルにおいて、再演の希望が多く開館20周年記念事業として上演した「市民創作ミュージカル I Live Here」のリメイク版、16回目を数える公募展「新進アーティスト作品展」の「歴代選出者作品展」、「佐渡裕指揮 シエナ・ウインド・オーケストラ」の開催を予定しています。

また日頃、会館に足を運ぶことができない方が気軽に文化芸術に親しめるよう、アウトリーチ事業にも積極的に取り組みます。「おでかけミュージカル」は、平成23年度より、「おでかけクラシック」は、平成26年度より継続している事業で、病院や福祉施設、学校等に出向き、音楽やダンス、ミュージカル等を紹介しており、その反響も高く地域に定着してきました。

この他、文化情報誌ロゼや新聞折込ロゼナビの発刊を通じ、自主事業公演の広報や地域の文化情報の発信に取り組みます。

平成30年度も市民が、文化芸術に触れ、楽しめるような環境づくりに努め、様々な文化事業を実施し、地域文化の振興、人材育成、交流の促進、文化情報発信に力を注いでいきます。

(2) 自主事業の概要

当財団の自主事業は、事業の目的ごとに「普及事業」「育成事業」「創作事業」「交流事業」「鑑賞事業」「広報事業」に分かれています。平成30年度も各事業に応じたプログラムを計画的に実施していきます。

普及事業では、クラシック音楽の普及を目的としたふじ少年少女芸術劇場「小・中学生招待コンサート」や「小学校学校コンサート」、歌舞伎初心者を中心とした「歌舞伎プレセミナー」等を行います。

育成事業では、未就学児でも入場可能な「ロゼこどもスプリングコンサート」や「ロゼこどもコンサート」、地元出身の演奏家による「新人音楽家による演奏会」などに加え、昨年度より実施している地域で吹奏楽に親しむ中高生を対象とした「シエナ・ウインド・オーケストラ アンサンブル・ワークショップ」を開催します。同楽団とは、様々な形で連携し事業展開していくことを計画しています。

創作事業は、開館20周年記念事業として上演し、地元ボランティアスタッフやキャストからも再演の要望が多い市民創作ミュージカル「I Live Here」をリメイクして再演します。

交流事業は、展示部門では、「新進アーティスト作品展歴代選出者作品展」を開催します。また、地元文化団体の協力のもと、館内施設を活用した「スタンプラリー」や「トレインフェスタ」、アウトリーチ事業として定着してきた「おでかけクラシック」「おでかけミュージカル」を実施します。

鑑賞事業は、幅広い世代が、様々な文化芸術をお楽しみいただけるよう音楽から演劇、古典芸能等、多彩なジャンルの公演を行います。音楽公演では、「佐渡裕指揮 シエナ・ウインド・オーケストラ」や情報誌ロゼの人気企画をコンサートにした「ロゼ・クラシックカフェコンサート」を開催します。古典芸能では、毎年恒例の「松竹大歌舞伎」、「林家たい平の家族で楽しむ落語会3」、「ふじ寄席」を開催します。また、アンケートでのリクエストも多い「劇団四季ミュージカル」や15回目の開催となる「ロゼフォークプラザ」を行います。

協力事業では、静岡交響楽団が開催する「ファミリーで楽しむ新春ニューイヤーコンサート」及び「ロゼ・ピアノコンクール」をサポートし、クラシックの若手演奏家の人材育成を支援します。

この他、広報事業として多彩な芸術文化情報を広く市民に提供するため、「文化情報誌ロゼ」や静岡県東部地区を主対象に総合チラシの新聞折込を行う「ロゼナビ」を発行し、自主事業の周知に努めます。

平成30年度も、幅広く市民のニーズに応えるよう、多種多様な自主事業を展開していきます。